

文教福祉画常任委員会研修報告

文教福祉常任委員会は、4月16日、市内2ヶ所の調査を実施し、6月15日には文化財保護審議会委員の皆様と意見交換会を持たせていただき、市内の歴史文化財等に対して、有るべき姿を想定しつつ貴重な意見・時間を共有することができました。

① 郷土資料館について

県博物館協会の資料によれば、合併後県内25の市町に82の博物館・美術館・郷土資料館が実存・共存・競合しております。懸案の歴史資料館建設について、場所、時期、規模、完成後入館状況、運営費等財政状況は厳しく、さらに議論を深める必要があります。

② 烏山城跡について

烏山城は応永24年（1417年）那須氏一族の沢村五郎資重^{すけしげ}によって築城されたといわれています。戦国末から江戸中期においては、頻繁に城主の交代が行われ、享保10年（1725年）譜代大名の大久保常春が、時の将軍徳川吉宗公の抜擢により烏山城主に任命されました。NHK大河ドラマ「吉宗」で大久保常春侯は将軍吉宗の絶大な信頼厚く老中幕閣の1人として、江戸城行財政改革に着手し業績を上げ、その実力は吉宗に高く評価され「将軍の日光代参」の責任者にも任命されております。残念ながら老中在職4ヶ月で亡くなり、将軍吉宗公はその遺徳をしのび、大久保常春侯の木像を造り寿亀山神社に祭られているとのことです。幕府の中心人物であった大久保常春侯が烏山城の殿様であったことを誇りに、大いにPRし、町おこし、ふるさと創生に活かすべきかと、報告させていただきます。

委員長 沼田 邦彦



烏山城跡常磐曲輪石垣前にて